

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370300768		
法人名	医療法人 社団 健成会		
事業所名	グループホーム ふれあいの家御薬園		
所在地	熊本県人吉市七地町21-1		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村報告日	平成27年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成27年3月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日本三大急流『球磨川』沿いに施設があり、ゆっくりと自然豊かな場所で生活できる。近くに、同法人の介護保険施設があり、イベント等交流も盛んである。また、同敷地内に協力医療機関が移転し、訪問看護ステーションと合わせ更なる連携を図り、入居者・その家族の方が安心して生活できるように協力体制を構築している。  
施設の近くには、桜の名所など季節ごとに楽しめる場所があり、入居者の方と職員が一緒に楽しみながら活動を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

球磨川沿いに位置し、季節の移り変わりや『球磨川鉄道』がホーム内、各居室から望む事ができる環境である。隣接、同敷地内には、同法人施設や協力医があり、医療の急変時や緊急な場合には協力体制が構築されており、入居者や家族にとって安心である。入居者一人ひとりに関して能力を把握し、その能力を活かし、低下させないように楽しみ事や役割を担ってもらうよう職員と供に楽しみながら生活として取り組んでいる。法人主催の計画的な研修会やホーム内での勉強会の開催など職員のスキルアップのための資格取得や質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に日々のケアを実践できるように、研修等で理念を確認し、全職員が共有できるようにしている。	職員でミーティングや研修の際に理念の振り返りを行い、理念に沿ったケアになっているか自分自身の振り返りもしている。理念は目につく場所に掲示し、訪問者などに啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中高校のボランティア体験や職場体験等、法人全体で積極的に受け入れている。また、買い物やドライブ等で出かける機会を確保し、地域とのつながりを保っている。	地域の行事に参加したり、買い物やドライブ、近隣の散歩に出掛けている。学生の職場体験やボランティア体験、近隣の保育園児との交流も積極的に継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合は、行政や法人全体で相談に対応し解決に向け取り組んでいる。また、グループホームで対応が困難な場合についても、各種サービスと連携し解決に向け取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、活動報告や事故報告等施設の状況を報告し意見交換を行っている。意見交換をもとに見直しを行いサービスの質の向上につなげている。	2か月に1回開催している。メンバーは町内会長、民生委員、行政職員、入居者、入居者家族、ホーム職員で構成されている。ホーム生活の様子や入居者の健康状態や職員の研修、事故報告等がされている。メンバーとの意見交換により地域の情報を把握できたり、ホーム生活の理解など進んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通し、日常の状況等は報告できている。また、市町村主催の研修等にも参加し、ケアサービス等の質の向上や協力関係を構築している。	事故報告の書類を提出したり、その際にもホームでのヒヤリハットの活用についての話をしている。市主催の研修等に参加しており、情報交換や協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、拘束がもたらす悪循環を職員へ研修等で理解させている。全職員が拘束をしない意識を持って業務に従事している。玄関等の施錠は夜間帯のみとしている。	法人の研修やホーム内の勉強会、外部の研修への参加にて、身体拘束がもたらす弊害を職員は理解している。業務中でも振り返る場面がある。ホームから出て行かれる入居者の制限はしておらず、一緒に出掛けたり、見守りをしている。夜間のみ玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんなことが虐待になるか理解し、仕事に従事している。又、勉強会や研修を通し、虐待防止に努めている。管理者は、職員の健康や精神状態を把握し、声かけを実施している。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解についてはまだまだ不十分である。研修会への参加は随時行っている。今後は、施設内で研修報告や行政主催の研修会等で理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が本人と家族に対し説明を実施している。特に、利用料や入院・退居時等の不安な部分は十分な説明を行い理解を得て、署名・捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、本人やその家族と話す機会を設けている。その中で意見や要望を把握できるように努め、職員間で共有し日々の生活に反映している。	日常の関わりの中で会話を積極的に行い、本人や家族の意見等を聞いている。家族の訪問も多く、遠方からも頻回に面会がある。入居者の生活の様子等を報告したり、話をしたり情報を把握し、職員間で共有し話し合い、運営へつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の際に職員からの意見を聞く時間を設けている。言いにくい場合は、個別に時間を設け意見を聞くようにしている。全職員で、出た意見や提案を検討し、当ホームに反映できるようにしている。	週1回勉強会と称して勉強会と会議を行い、職員のアイデアや意見を聞いている。管理者は普段から職員から意見などを言いやすい姿勢で職員へ接している。出された意見や提案は全員で検討し、解決できないものは法人へ上げ運営へつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断は定期的実施している。各自が向上心を持って勤務できるように親睦を深める為の諸行事を開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム・法人内での勉強会を実施しており、研修の機会は確保できている。又、外部研修に関してもブロック会や地域の研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会を2ヶ月に1回実施している。その中で、意見交換や親睦会、勉強会に参加し様々な情報を得ている。又、法人内の他事業所とも情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに管理者が訪問し、本人と十分面談している。又、家族と共に見学していただき本人の問題点、家族の思い等を傾聴し、安心してサービスへ移行できるよう信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてホームに馴染まれるまでは、こまめに家族へ情報を提供し、不安の軽減に努めている。要望や意見があれば、職員間で共有し可能な限り実行するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況や性格、家族の要望等、入居前の情報をもとに初期ケアプランを作成している。プランをもとにサービスを提供している。その後、評価を行いプランの変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や食事の片付け・洗濯物たみ等、入居者の方に役割意識を持って生活できるようにしている。職員もできる限り時間をとって入居者と一緒実施するように指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の状況・状態を報告し、ホームと家族の間で情報の共有を行っている。遠方の方には、電話報告を行っており、本人と話をしてもらう機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の情報を聞きながら馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。又、入居前に行かれていた理髪店等に出かけたり、知人が気軽に訪問できるように環境作りに努めている。	馴染みの関係を大切にしており、理髪店への希望があればお連れし、時間を見て迎えに行ったり、家族の協力を得ることもある。希望の場所に出かける要望がある場合には一緒に出掛ける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士での関わりを把握しており、毎日の話し口調や表情でその日の心身状態を見極めている。入居者が孤立しないように職員が間に入ったり、皆で参加できる活動や行事を提供している。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入居されても、本人の様子を伺う為にお見舞いや訪問を行ったり、電話での状態把握に努めている。又、家族の方とも定期的に連絡をとり、何か困った事がないか聞くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入居者の要望や意見を聞くようにしている。又、しぐさや反応からも把握するように努めている。困難な方には、本人に合った暮らしとはどのようなものかを見つけたすようにしている。家族から情報を得ることもある。	日常の関わりの中で、会話や傾聴をととして希望や要望を聞き取り、把握している。困難な方は家族からの情報や、入居者に寄り添い、穏やかな時間に質問し、それに対する反応やしぐさから推測するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を家族や担当のケアマネジャーより提供して頂いている。これまでの生活歴の把握に努め、入居後も馴染みの暮らし方ができるようにしている。畳・フローリングの部屋があり選べるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、個々の生活状況・心身の状態変化を把握するようにしている。又、家事やレクレーションを行う中で、個々のレベルがどのくらいの状態にあるかを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成前に、本人・家族と話し合いの場を設け、意向を聴いている。それをふまえて介護に携わる職員・看護師・医師との十分な話し合いの中で、最良の介護計画を作成するようにしている。	定期的に職員を含めてカンファレンスを実施し、家族や本人の意向等を聞き入れ、看護師・医師の意見を入れて介護計画を作成している。毎週カンファレンス、3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎に計画の見直しをしている。変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	僅かな状態の変化でもカルテに詳細を記入している。職員間での情報を共有し、介護計画に沿ったケアを実施している。又、それに伴う介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族のニーズに応えられるように努めている。法人全体の協力を得ることが可能な為、必要に応じて通院等柔軟に対応している。遠方に家族がいる方は、市役所への手続き等職員のできる範囲で対応している。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見やお祭り等に積極的にでかけるようにしている。又、地域の方がボランティア等で来園される時は、一緒に活動に取り組むようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、希望するかかりつけ医を確認している。現在、全入居者が系列病院の主治医であり、月に二回定期受診を行っている。又、入居中に、別の医療機関を希望される場合も、本人や家族の意思を尊重するようにしている。	入居前からのかかりつけ医の医療を受診できるようにしている。現在は隣接の系列病院で月2回受診を職員による支援を行っている。他科については希望の医療機関としており、職員による通院支援を行っている。受診後は家族との情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な心身の状態変化があれば、訪問看護に報告し、指示を仰ぐようにしている。又、週一回の訪問による全身状態のチェックや夜間の緊急時にも対応してもらえるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合には、病院へ情報提供書を作成し、申し送りを行っている。又、必要の際には、主治医からの情報提供書も準備するようにしている。入院時は、頻回に病院を訪問し、状況把握に努めている。SWとの連携も随時行い、スムーズに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について説明を行っている。症状が変化したその度に、本人・家族と相談し方向性を確認している。医師・看護師・職員・家族と共に協力して実施できるように説明を行っている。	入居時に重度化した場合や看取りについての説明をしている。病状が急変した場合のホームの対応や職員の体制、かかりつけ医や訪問看護との連携を図りながら実施することになると説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署に協力してもらいAEDや心肺蘇生法を学んでいる。又、緊急時のマニュアルを作成しており、連絡方法や対応の内部研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の基、定期的に防火訓練を実施している。災害時に適切な対応が行えるように技術的・消火訓練等を行っている。又、災害時の地域連絡網があり、必要な時には協力が得られるように備えている。	年2回消防署の指導のもと、ホーム単独で昼・夜想定で入居者参加で、通報、初期消火、避難誘導の訓練を実施している。災害時の地域の連絡網があり、必要な際には地域の方の協力が得られるようになっている。急変時のマニュアルを作成しており、連絡方法や対応の研修や救急法を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格を理解し、その人が安心するような声かけを行っている。他の入居者にそれと悟られないような声かけで排泄の促しをする等、人権の尊重には常に配慮している。	入居者一人ひとり理解し、それぞれに合わせて言葉かけや対応を行っている。排泄の場合など、他の入居者に気づかれないように声かけしたり、入浴時には入居者が恥ずかしい思いをしないように配慮し、人権を尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の考えや希望を傾聴し、表情等から本人の思いを汲み取ったり、選択肢を用意する等、できるだけ自己決定してもらえるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活ペースに合わせて、起床・入浴・臥床等支援している。できる限り入居者の希望やその日の体調に合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問され本人の希望・好みを伺いながら対応している。又、馴染みの理容店がある方に関しては送迎を行い対応している。毎日の化粧・身だしなみ等は、個別に本人の要望に添いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り調理・配膳・後片付け等を入居者と職員と一緒にできるよう取り組んでいる。好き嫌いのある方も、他の食材で対応し、盛り付けは彩り等を考慮しながら行っている。	能力に応じて食事に関する調理、準備、下膳、テーブル拭き等を一緒に行っている。献立に関しても好みのものに替えたり、食事の形態を変えたり対応している。食事に関する時間を大切にしており、職員も一緒に同じものを摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理の下、栄養バランスのとれた食事を提供している。毎食後、食事・水分摂取量を記録し、摂取量をみて声かけ・説明を行っている。又、入居者の状態に応じて食事形態を工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく本人で行って頂き、最終的に確認を行い必要に応じ手直しを実施している。義歯洗浄には、専用の物で洗浄・除菌を行っている。		

グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、日中・夜間共に定時のトイレ誘導を行っている。見守りや寄り添う中から予兆を察知し、プライバシーや周辺に配慮し誘導を行っている。夜間帯ポータイルを使用される方もおられる。	排泄チェック表を利用し、入居者の排泄のパターンを把握している。時間や様子を推察して周りに配慮したトイレへの声かけや誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間帯も時間で起こす方やポータブルトイレを使用の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の回数や状態を職員全員が把握出来るよう排泄チェック表の記入・申し送りを徹底している。便秘の続く方には水分を多めに摂ってもらったり運動への働きかけに努めている。3日排便がない時は、訪問看護に連絡し対応してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、隔日の入浴にて対応している。希望があれば毎日入浴・夜間浴が可能である。入浴拒否みられる方に関しては、時間を置き再度誘いかけを行う等の対応を行っている。	基本1日おきの入浴支援としている。希望により、毎日でも夜間でも入浴できる。拒否の方には無理強いせず、時間を置いたり、タイミングを見て誘導している。冬場は足浴をするかたもおられる。汚染時には清拭やシャワー浴等をし、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせて就寝や日中の臥床を実施している。夜間帯は、室温の調整や湯たんぽの使用(希望時)を行い良質な睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・用量・効能・副作用については、一人ひとりの薬と最新の処方箋を一緒に管理しており職員がすぐに確認出来るようにしてある。入居者の体調に異常があれば、医師・看護師に服薬についての指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの性格や好みを把握し、今までの生活歴を参考にしうえで、役割や仕事等を提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を聴き、四季折々の草花(梅・桜・ツツジ・花菖蒲・紅葉等)を見にドライブへの誘いかけを行っている。又、初詣や地域のお祭り等を見に行ったり、入居者の方が行きたい所に行けるよう支援している。	季節毎に花見やドライブに出かけたり、天候や体調を考慮して買い物やドライブなど、希望があれば出来るだけ外出している。ホーム周辺の散歩や病院へ通院帰りに買い物に出かけたりしている。家族の協力を得ることもある。	



グループホーム ふれあいの家御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や金銭管理能力を把握したうえで対応している。買い物の際には、金銭の受け渡し・計算等の手伝いを行い、出来るだけ本人が自分の意思のもとと金銭を扱えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には、携帯電話を所持し自由に電話での会話を楽しまれている。そうでない方も、本人希望時には対応している。職員が近況を報告する際にも、本人に代わって話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活できる為に、空調や照明等に配慮している。又、季節の花を飾ったり、雛人形や十五夜のお供え物等、常に四季が分かるような空間作りに努めている。	共有空間は機能的な作りになっており、入居者の動きが台所や廊下から把握できる。季節を感じるように装飾したり、家庭的な雰囲気大切にしている。室温や換気、臭気、音の大きさ等に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分の時間をもてたり、入居者同士が交流を図れるよう日々の状態を把握し、関係性・相性等も配慮した空間作りを行っている。又、廊下や玄関には腰掛けられるスペースが設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのある家具等を活用して頂いたり、本人の要望や好みの物を把握し、居心地良く過ごせる居室作りを行っている。	入居前の家具や使い慣れた生活用品を持ち込むように家族に依頼し、入居者が過ごし易い居室作りの支援がしてある。ソファや箆笥、椅子、仏壇、家電等の持ち込みがある。身体機能に応じて家具のレイアウトを変えている。入居者がいる時に掃除を一緒にしたり、洗濯物を本人がいる時に片づける入居者もいる。居室のドアは各自違い、トイレや浴室なども混乱が無い様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて居室内の配置を変更したりと、なるべく自分で出来るように考慮している。居室の扉は、違う色を使用し混乱しないような作りをしている。		

(別紙4(2))

事業所:ふれあいの家 御薬園

作成日:平成27年4月20日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全体で理念については共有できているが、入居者やその家族、地域の住民への方への啓発が不十分である。また、現在の理念が長期になっており状況に合わせての修正や変更が必要である。	入居者やその家族、地域への方への啓発を行う事ができ、理念を共有することができる。	1.運営推進会議での理念の説明を行う。	12ヶ月
2				2施設見学者や入居希望者に関し、理念の通達を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。